

# 出版案内

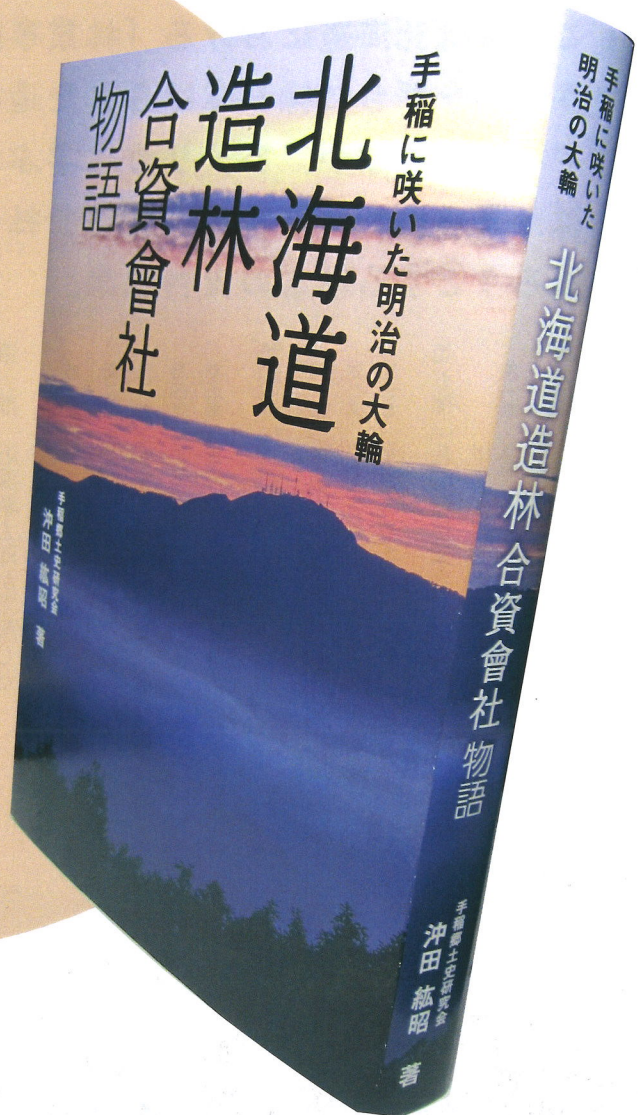
## 北海道命名 150 年記念 手稲区誕生 30 年記念

手稲に咲いた明治の大輪

# 北海道 造林 合資會社 物語

手稲郷土史研究会

沖田 紘昭 著



申込先は、公益社団法人 北海道森と緑の会

〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西7丁目1番地 北海道水産ビル6F  
電話：011-261-9022 FAX:011-261-9032

Eメール：morimidori@h-green.or.jp

【体裁・頒価】A5版、341頁、2,500円(税別)+送料別途

# 時は明治初期。 はたして寒冷積雪の大地に 造林業は成り立つのか！

## 手稲の大きな歴史遺産 北海道造林合資会社の 全貌がついに 明らかになる

この書は北海道における「林業事始め」である。  
手稲山を舞台に繰り広げられた造林の大実験。  
ドイツに学ぶか、アメリカに学ぶか、  
はたまた内地に学ぶか。造林会社の「日常」に  
迫ろうとする執念の資料収集。

### 手稲に咲いた明治の大輪 北海道造林合資会社物語 目次

- 一部 創業者 田中壤
  - 第一章 前北海道時代
  - 第二章 北海道庁時代
  - 第三章 北海道造林合資会社の創業
  - 第四章 北海道林業会の設立
  - 第五章 田中壤 終章
- 第二部 戊辰戦争、敵も味方も遺恨なし  
三代の社長と主な株主
  - 第一章 創業時代（明治三十一年七月～同三十六年六月）
  - 第二章 第一革新時代（明治三十六年六月～同四十二年）
  - 第三章 手稲に集いし精銳の面々
- 第三部 近藤新太郎が采配した  
黄金時代の事業内容
  - 第一章 第二革新時代（明治四十二年～大正六年）
  - 第二章 「業務一般」に見る事業内容
  - 第三章 「第十七期事業報告」に見る事業内容
  - 第四章 第三革新時代（大正七年～昭和三年）
  - 第五章 「事績の概要」に見る事業内容
- 第四部 近藤新太郎の生涯
  - 第一章 近藤新太郎の生い立ち
  - 第二章 本多静六博士と近藤新太郎
  - 第三章 近藤新太郎と手稲村
- 第五部 「北海道林業会報」に見る  
北海道造林合資会社
  - 第一章 会報の全巻要約
- 第六部 私論



### 推薦文

札幌手稲郷土史研究会前会長

茂内義雄氏

今回刊行された「北海道造林合資会社物語」は、初めて世に問うた貴重な歴史書である。各種研究団体の出版物やインターネットをひもといても皆無である。ただここで声を大にして近藤新太郎の名が見えないということである。要するに彼の存在が知られていないからである。遅まきながら今私たちは、著者沖田を先頭に手稲山の歴史に埋もれていた造林社イコール近藤新太郎を世に送り出そうと必死に努力しているところである。単到手稲の郷土歴史という片隅で語られる中身でないことを知っていたらだいた

北海道文化財保護協会顧問

札幌市手稲郷土史研究会元相談役

野村武雄氏

北海道命名百五十年前から手稲山周辺は「一三等官林」となり「用材山」とされ（手稲歴史年表より）また官林、私林以外は「人民伐採ヲ許ス」となる。当時の民間の燃料エネルギー「まき、炭」として大活用される時代。

この舞台に登場するのが田中壤であり近藤新太郎であり「指南番（プロデューサー）役」の本多静六博士である。舞台は「北海道造林合資会社」となる。

この人生、企業の最盛期と衰退期に対処する近藤らの人間的な誠意と努力についても本書は多くの自伝、資料記録を通して解明する努力が読みとれよう。

願わくは、初の読者はぜひ著者の「序文」と「第六部 私論」から読み進んで、ぼう大な資料と引用に驚かれず、ぜひ著者の郷土手稲の山々と人々への限らない想いを読みとって下さることを切望したいと思う。